

**第2次南房総市総合計画  
後期基本計画  
序論と基本計画の構成（検討原案）**

**2022（令和4）年5月**

## 【 目 次 】

### 第1部 序論

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 第1章 計画策定の考え方                | 1  |
| 1 計画策定の趣旨                   | 1  |
| 2 計画の期間と構成                  | 2  |
| 3 基本構想の概要                   | 3  |
| 第2章 前期基本計画の総括               | 4  |
| 第3章 地域の概況                   | 6  |
| 1 人口・世帯                     | 6  |
| 2 人口と財政の見通し                 | 8  |
| 第4章 市民の意向（市民アンケート・中学生アンケート） | 10 |
| 第5章 前期基本計画の総括と市の現状からみた主な課題  | 14 |

### 第2部 後期基本計画（総論）

#### 重点プロジェクト

#### 各プロジェクトの詳細

#### 6つの基本方針とSDGs

### 第3部 後期基本計画（各論）

|                 |    |
|-----------------|----|
| 施策の体系（とSDGsの関係） | 16 |
|-----------------|----|

#### 第1章 優しく安心して暮らせる南房総（保健・医療・福祉）

#### 各施策の詳細

## 第1章 計画策定の考え方

### 1 計画策定の趣旨

総合計画は、市の目指すべき将来像の実現に向けて、中長期的視点に立ってまちの将来を展望し、望ましい方向性などを総合的・体系的にまとめた計画です。また、市民とともに、課題や目的を共有しながら取り組んでいくための基本的な指針となるものです。

この計画を市政運営の基本指針として、市民と行政の協働によるまちづくりに取り組んできました。

近年では、全国規模で人口減少と少子高齢化が進み、それに伴うさまざまな影響が顕在化しています。本市は、県内でも人口減少・少子高齢化が進んでいる地域であることから、これらの問題・課題を解決するため、地域資源を活かした独自性あるまちづくりのさらなる推進が求められています。

また、令和元年房総半島台風などの激甚化する自然災害や、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴う社会経済情勢の大きな転換、インターネット空間と現実世界の融合により経済成長と社会課題の解決を目指す Society5.0 や企業や行政における業務効率化に留まらず、住民の利便性向上、さらには新たな付加価値や市場の創造などを目指す DX への対応、ゼロカーボンシティに向けた取り組みや持続可能な社会の実現に向けた SDGs への取り組みなど、新たな時代潮流への対応も求められています。

こうした状況の中、全ての市民が満足して暮らしていくことができるよう、急激な人口減少を和らげ、地域経済の活性化を図るとともに、持続可能なまちづくりを確立するためには、これまで以上に効率的で効果的な行政運営が必要とされます。

「第2次南房総市総合計画」は、2018（平成30）年度から2027（令和9）年度までの10年間を計画期間とし、人口減少と少子高齢化という喫緊の課題に対応するための計画です。

このたび、「第2次南房総市総合計画」の前期基本計画が2022（令和4）年度末に計画期間満了を迎えることから、ここに2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までの5年間の展望した中長期的で総合的な運営を担う計画として、「第2次南房総市総合計画」の後期基本計画を策定します。

## 2 計画の期間と構成

「第2次南房総市総合計画後期基本計画」は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層から構成しています。それぞれの性格と計画期間は、次のとおりです。

### (1) 基本構想：10年間

基本構想は、総合的かつ計画的にまちづくりを進めるために定めた基本的な構想であり、行政運営の指針となる長期構想です。本市が将来目指そうとする姿である「将来像」と、将来像実現のための「基本方針」を定めています。

【計画期間】2018（平成30）年度から2027（令和9）年度まで（策定済み）

### (2) 基本計画：5年間

基本計画は、基本構想に掲げる将来像を実現するための施策を体系的に示した計画です。施策の目標や方向性、主要な取組などを分野別に定めています。また、人口減少と少子高齢化という喫緊の課題に対応するための重点プロジェクトを位置付けています。

【計画期間】

前期基本計画：2018（平成30）年度から2022（令和4）年度まで（策定済み）

後期基本計画：2023（令和5）年度から2027（令和9）年度まで

### (3) 実施計画：5年間

実施計画は、基本計画に定められた施策を実現するための主要な事業について具体的に定めた事業計画です。PDCA サイクルによる見直しを毎年度実施し、予算と連動した実効性の高い計画とします。

【計画期間】2023（令和5）年度から2027（令和9）年度まで

#### 《計画の3層構造と計画期間》

| 2018<br>(H30)      | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023               | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 |
|--------------------|------|------|------|------|--------------------|------|------|------|------|
| 第2次基本構想(10年間)      |      |      |      |      |                    |      |      |      |      |
| 第2次総合計画前期基本計画(5年間) |      |      |      |      | 第2次総合計画後期基本計画(5年間) |      |      |      |      |
|                    |      |      |      |      | 実施計画(5年間) ※毎年度見直し  |      |      |      |      |

### 3 基本構想の概要

#### (1) 将来像

第1次総合計画では、地域づくりの根幹である「ひと」(市民)が、それぞれの「ゆめ」(願い)を大切に育みつつ、「みらい」(将来)を切り開いていく、そんな魅力のあふれる南房総を創ろう、という思いから、将来像を『ひと・ゆめ・みらい 地域で創る魅力の郷 南房総』と決めました。

しかし近年、少子高齢化や若年層の地域外流出などにより、本市の人口減少に歯止めがかからない状況が続いています。とりわけ、未来を担う世代の減少は、地域の持続性を揺るがす深刻な問題です。

これからの南房総市が住みたいまち・選ばれるまちになるためには、一人ひとりが自分らしいと感じる暮らしを実現するための環境づくりが必要です。

私たちは、市民と行政との協働を基調とし、誰にとっても「魅力の郷」と感じてもらえるようなまちづくりを、さらに力強く推進していくことを目指します。



#### 地域で創る魅力の郷 南房総

#### (2) 基本方針

将来像を実現するため、6つの分野について、以下を基本方針としてまちづくりを進めていきます。

##### 1 優しく安心して暮らせる南房総(保健・医療・福祉)

市民誰もが、生涯安心し生きがいを持って暮らせるまちづくりを進めます。

##### 2 活力ある地域産業の南房総(産業・雇用)

地域に活力を生む産業と、多様な雇用の場を創出するまちづくりを進めます。

##### 3 豊かな学びと文化の南房総(教育・文化・スポーツ)

子どもから高齢者まで、学習活動やスポーツ活動を楽しめるまちづくりを進めます。

##### 4 安全で快適な南房総(生活・自然)

安全・快適で、うるおいのある市民生活を送ることのできるまちづくりを進めます。

##### 5 地域がつながる便利な南房総(道路・交通)

交通ネットワークを充実し、市民の観光交流や経済活動を促すまちづくりを進めます。

##### 6 市民が創る南房総(移住促進・市民参加・行財政)

市民と行政のみならず、南房総市で活動するさまざまな主体の協働により、“私たちのふるさと・南房総”を力を合わせて創ります。

## 第2章 前期基本計画の総括

### (1) まちづくりの将来目標についての検証（人口）

■将来にわたり、人口3万人を維持することを目標に掲げています。

総人口は、自然増減数は減少数の拡大傾向が続き、社会増減数はほぼ横ばいであることから、全体的には減少数の拡大傾向が続いています。

令和2年度国勢調査の総人口は35,831人で、第2次総合計画策定時の令和2年度の見通し（社人研推計）35,937人と比較して若干減少のペースが速くなっています。

また、20歳から39歳までの人口総数は、平成27年から令和2年までの5年間で19.2%減少しました。

令和2年度国勢調査の人口総数は3,813人で、第2次総合計画前期基本計画で目標としている4,800人の維持はできていませんが、令和2年度の見通し（社人研推計）3,730人と比較すると、若干減少のペースが緩やかになっています。

### (2) 重点プロジェクトについての検証

#### ■重点プロジェクト1 子育て支援の充実

子育て環境の整備や教育の充実に向けた各種取組や成果指標において推進しているものはありますが、出生率の上昇には至っていません。市民意識調査結果では、本市の重点的に進めるべき取組として「子育て支援の充実」が挙げられ、子育て支援に対して市民関心度が高いことがわかります。一方、「学校教育施設の整備充実」の満足度は高くなっており、GIGAスクール構想推進など、時代に応じた教育推進への取組に満足していることが考えられます。全国的に自治体独自の教育内容がますます注目されており、今後も南房総市としての特色を出しつつ、地域の歴史や文化に関する授業も継続することで、地域に愛着を持つ子どもを増やしていくことが必要です。

また、本市は令和2年に、老年人口（65歳～）が生産年齢人口（15～64歳）を上回る現象が生じています。総人口に占める老年人口（65歳以上）の割合が約5割（47.2%）に達しており、年少人口も減少傾向にあります。様々な子育て支援策がある一方で、事業の縮小・廃止が懸念されるため、今後は市内外の子育て世代に対し、妊婦期から子育て期までサポート支援や地域に根差した一貫した子育て環境の充実をPRするとともに、移住・定住の施策と連動しながら子育て世代の流入を増やすことが重要となります。

## ■重点プロジェクト2 仕事づくりの応援

南房総市独自の生産品や観光資源を活用した様々な取組により、産業振興については一定の成果が出ていると言えます。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、実績値としては減少しているが現状です。市民意識調査結果では、「新たな産業の振興」の満足度は全施策の中で最も低くなっており、特に若者を中心とした雇用の推進については優先的に取り組む必要があります。生産年齢人口が減少する中、労働力人口の確保が課題となっているため、特に農林水産業を中心に後継者確保に取り組む必要があります。

南房総市独自の魅力を維持・創出しながら、まちのにぎわい創出に取り組むため、新型コロナウイルスへの対応も必要になります。産業では、ポストコロナ時代に向けた新たな観光事業の検討や誘客方法の工夫など継続して取り組むことが重要です。企業支援・雇用促進では、求職者・企業のニーズ、労働市場の変化に柔軟に対応する必要があります。若い世代が住み続けられるようワーク・ライフ・バランスや多様な働き方を推進することで長く働ける環境を整えることも重要です。

## ■重点プロジェクト3 移住・定住の促進

移住ニーズの増加により、「空き家バンクを利用した市外からの転入者数」や「住宅取得奨励金取得数」は実績値が目標値を大きく上回っているのが現状です。しかし、移住ニーズの増加に対して空き家物件や就労環境の選択肢が少ないため、移住機会の損失が懸念されています。市民意識調査結果では、「移住・交流の促進」の満足度・重要度は全施策の平均に留まっているものの、移住・定住促進への取組の優先度は高いため、特に若い世代を中心に転入を促進する必要があります。一方、高校卒業と同時に都市部へ転出する傾向があるため、子育て・教育や産業・雇用の施策との連携を図りながら、Uターン促進に取り組む必要があります。

また、行政だけで地域課題を解決することが困難な時代において、持続可能な地域づくりのために市民と協働で取組を進めることは重要です。移住者が地域活動に参加することで、まちへの愛着が増し、定住意向が増加することも期待できるため、移住者の既存コミュニティへの接続支援や受け入れる側の体制強化、市民意識の醸成にも取り組む必要があります。

## (3) 個別施策についての検証

6つの基本方針を推進するための各施策と取組等の検証結果については、第4部 後期基本計画（各論）に分野別・施策別の主な課題を掲載しています。

後期基本計画（各論）の施策や取組等については、それを踏まえた上で修正や追加等見直しを行っています。

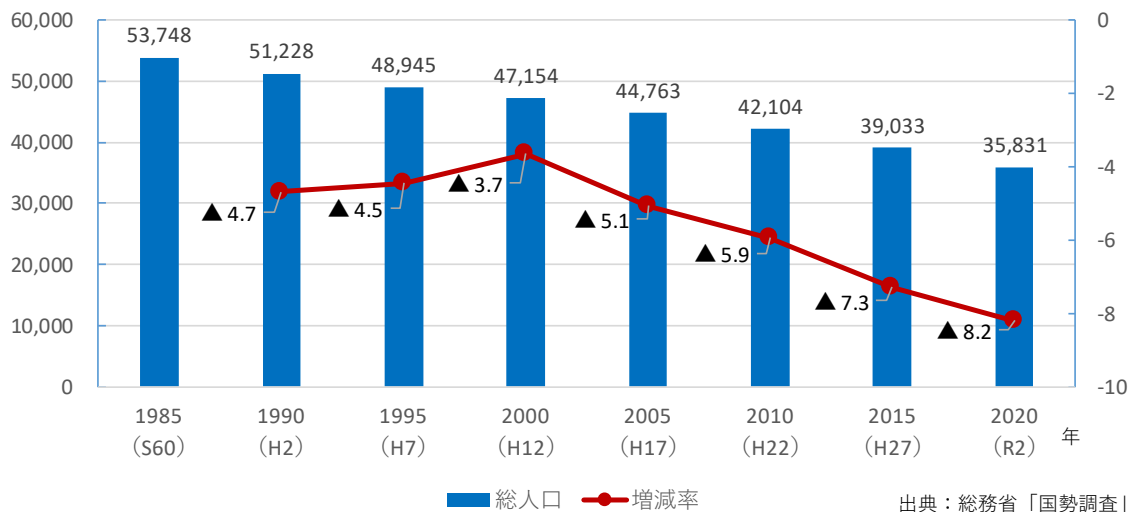
### 第3章 地域の概況

#### 1 人口・世帯

##### (1) 総人口

本市の総人口は、1985（昭和60）年には53,748人であったのに対し、2020（令和2）年には35,831人となり、35年間に約7割（66.7%）まで減少しています。5年間の増減率はマイナス（▲）5%程度でしたが、近年ではマイナス（▲）10%に迫っており、人口減少が加速化しつつあります。

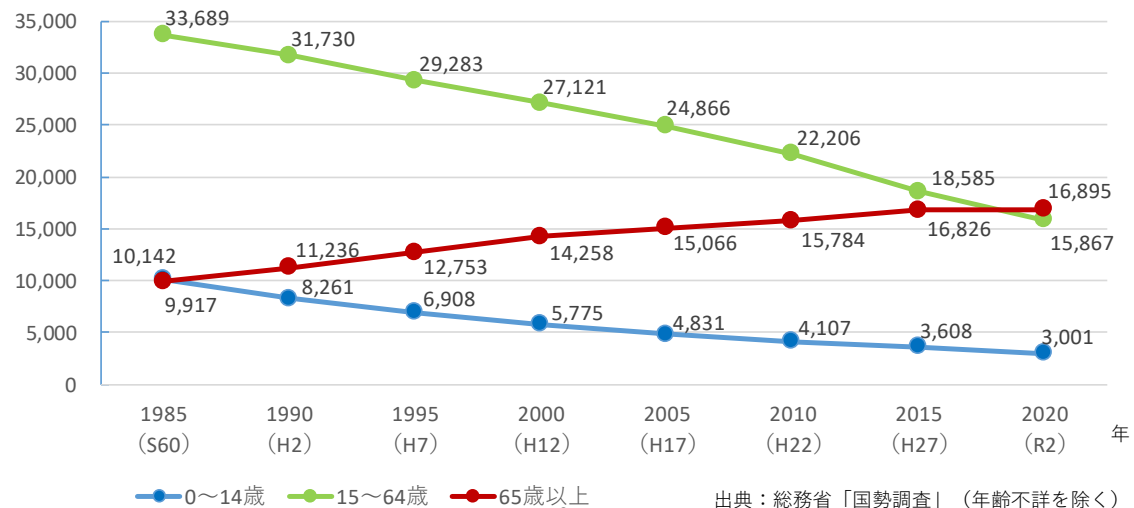
総人口の推移（人・%）



##### (2) 年齢3区分別人口

本市では、0～14歳人口及び15～64歳人口の減少と、65歳以上人口の増加が続いています。2020（令和2）年には、0～14歳が3,001人（8.4%）、15～64歳が15,867人（44.4%）、65歳以上が16,895人（47.2%）となり、65歳以上人口が15～64歳人口（生産年齢人口）を上回る現象が生じています。

年齢3区分別人口の推移（人）



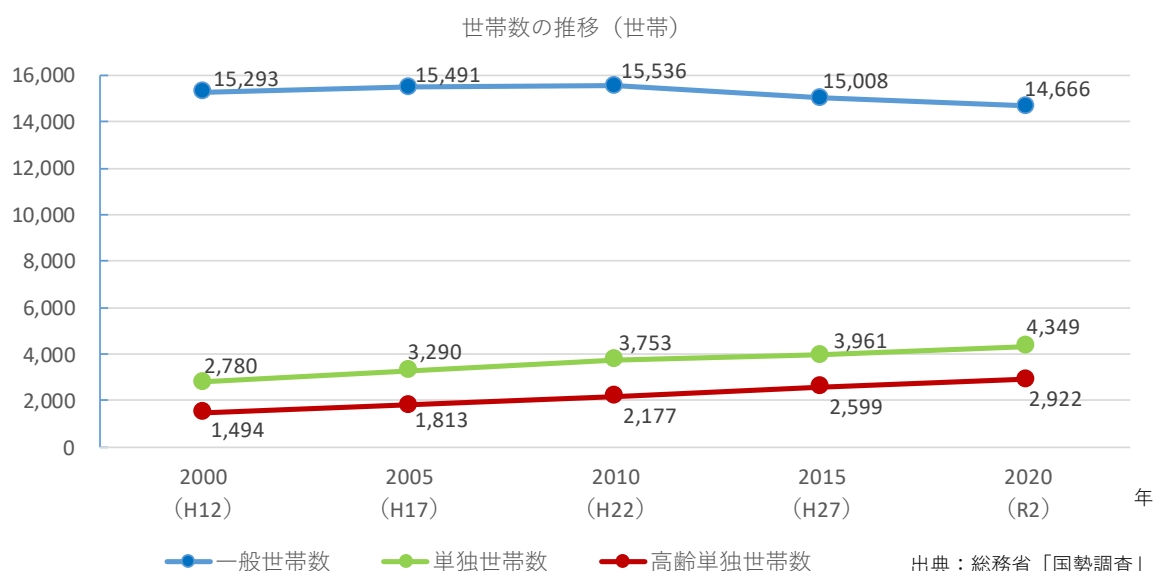


### (3) 産業別就業人口

※2020 年国勢調査結果確報値（5月公表予定）を踏まえ、今後、記載します。

### (4) 世帯

本市の世帯数（一般世帯数）は、2010（平成 22）年の 15,536 世帯をピークに減少傾向にあり、2020（令和 2）年では 14,666 世帯となっています。一方、単独世帯数及び高齢単独世帯数は増加傾向にあり、2020（令和 2）年には、単独世帯 4,349 世帯（29.7%）、高齢単独世帯 2,922 世帯（19.9%）にのぼっています。



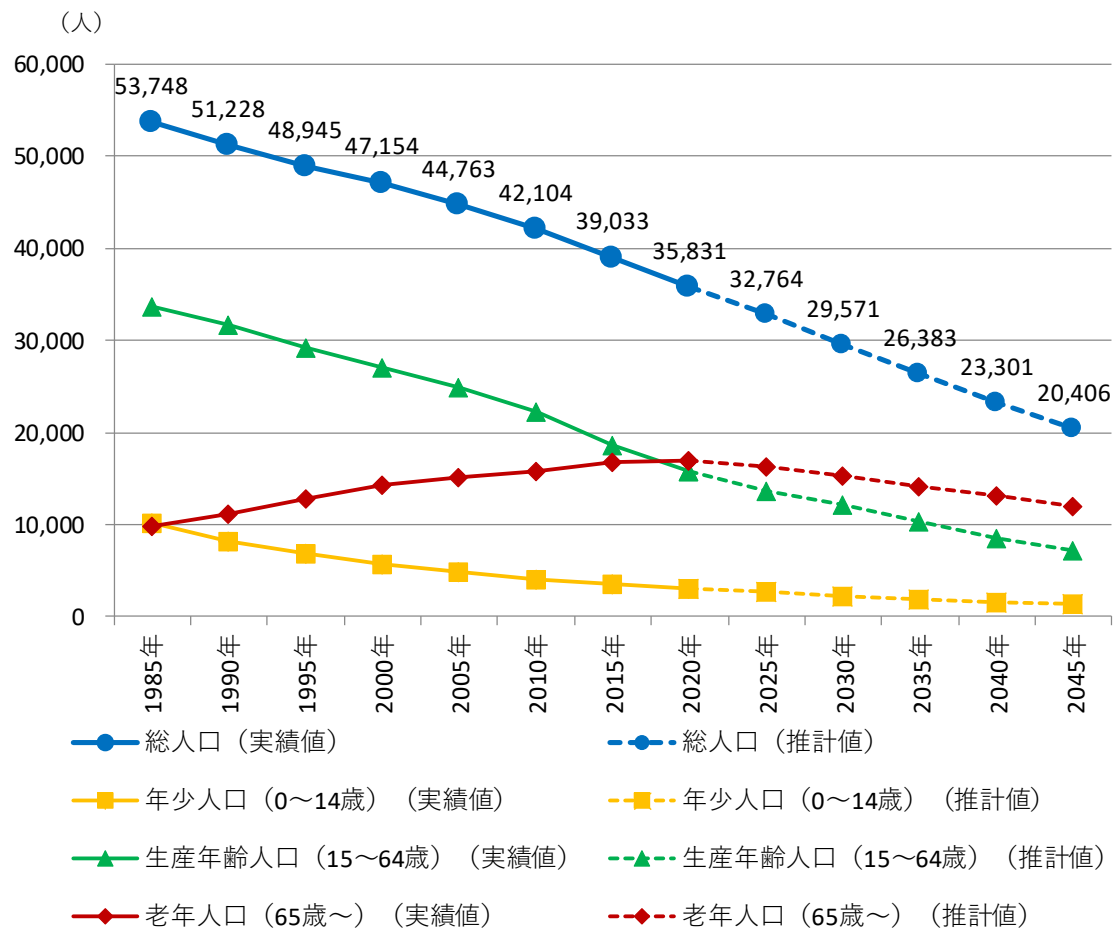
## 2 人口と財政の見通し

### (1) 人口の見通し

本市の総人口は、2020（令和2）年には35,831人となっています。2020（令和2）年には、老年人口（65歳～）が生産年齢人口（15～64歳）を上回る現象が生じています。また、総人口に占める老年人口（65歳以上）の割合が約5割（47.2%）に達しています。

国は、2045（令和27）年には総人口が20,406人となり、2015（平成27）年の約5割（52.3%）になると推計しています。国の推計では年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）の減少が進みます。老年人口（65歳以上）についても減少しますが、高齢化率は上昇を続け、2045（令和27）年には約6割（58.6%）に達します。

※以上は、国（社人研）の推計を仮置きしたものです。今後、人口の将来展望（前期基本計画の場合、2040年に約3万人）を推計し、差し替えます。



出典：総務省「国勢調査」1985（昭和60）年～2020（令和2）年

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）\_千葉県」

## (2) 財政の見通し

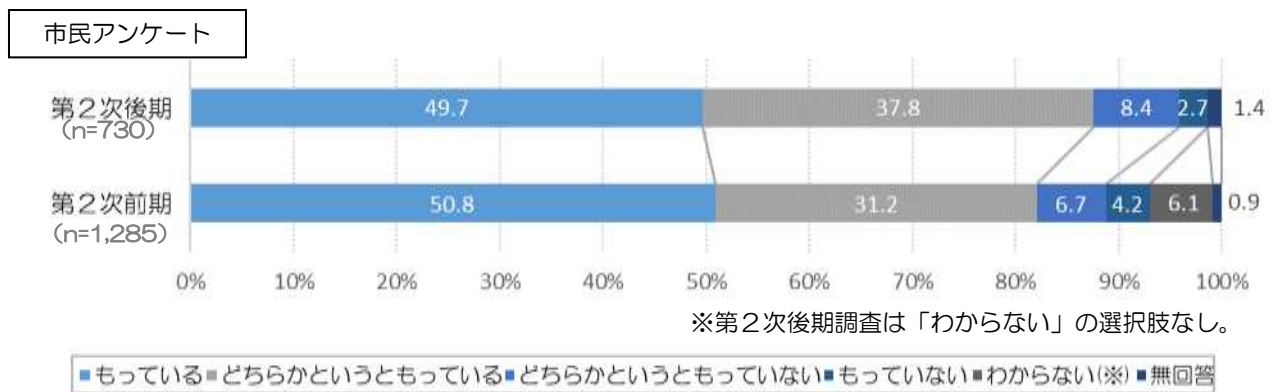
※本計画の計画期間（2023～2027 年度）における財政推計を実施し、掲載します。

## 第4章 市民の意向（市民アンケート・中学生アンケート）

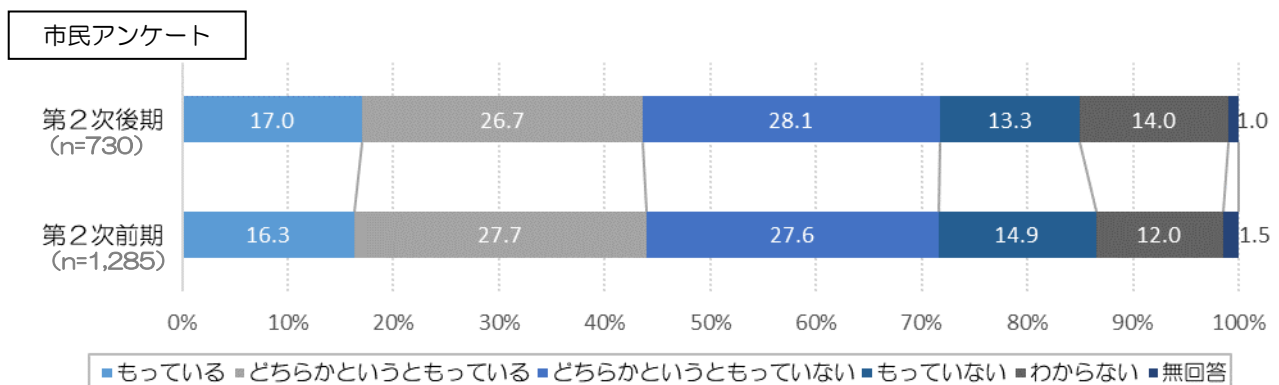
本市では、第2次総合計画後期基本計画策定に向け、2021（令和3）年度に市民等意識調査を実施しました。ここでは調査結果のうち、計画の方向性や課題に関する項目を掲載します。なお、グラフの上段は本調査、下段は前回調査の結果を示します。（前回調査は、第2次前期：2017（平成29）年度市民等意識調査、または第1次前期：2007（平成19）年度市民等意識調査となります。）

### （1）愛着と希望

愛着を「もっている」が約5割を占めています。前期計画時と比較すると、愛着を「もっている」「どちらかというともっている」の合計が87.5%と5ポイント程度上昇している一方で、「もっていない」が8.4%と上昇しています。

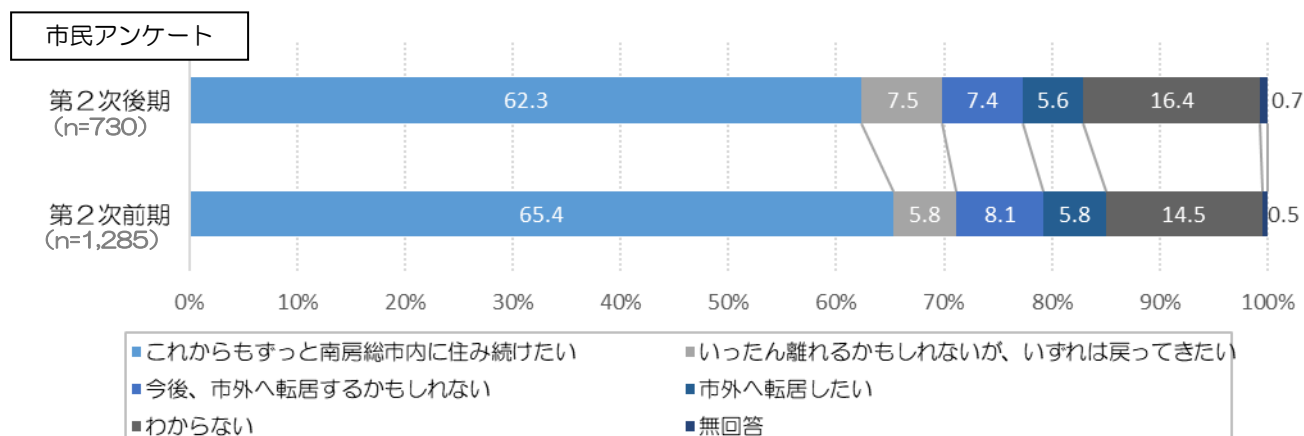


他方、将来への希望を「もっている」は17%を占めています。前期計画時と比較すると「もっていない」は13.3%と1.6ポイント減少しています。

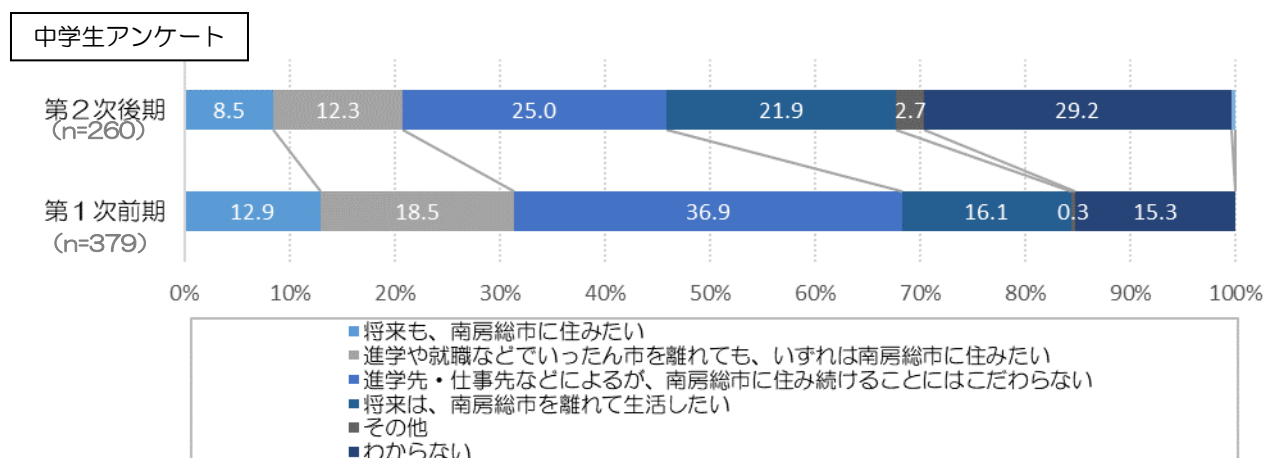


## （２）定住意向

市民アンケートでは、「住み続けたい」「いったん市を離れても戻ってきたい」が約７割となっています。前期計画時と比較すると、「これからもずっと南房総市内に住み続けたい」が３ポイント程度減少しています。



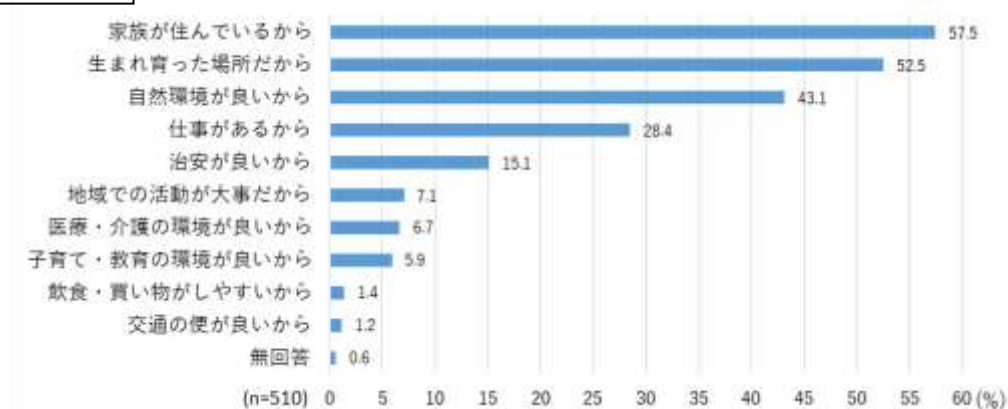
他方、中学生アンケートでは、「住み続けたい」「いったん市を離れても戻ってきたい」が約２割に留まっており、前期計画時と比較すると、10ポイント程度減少しています。



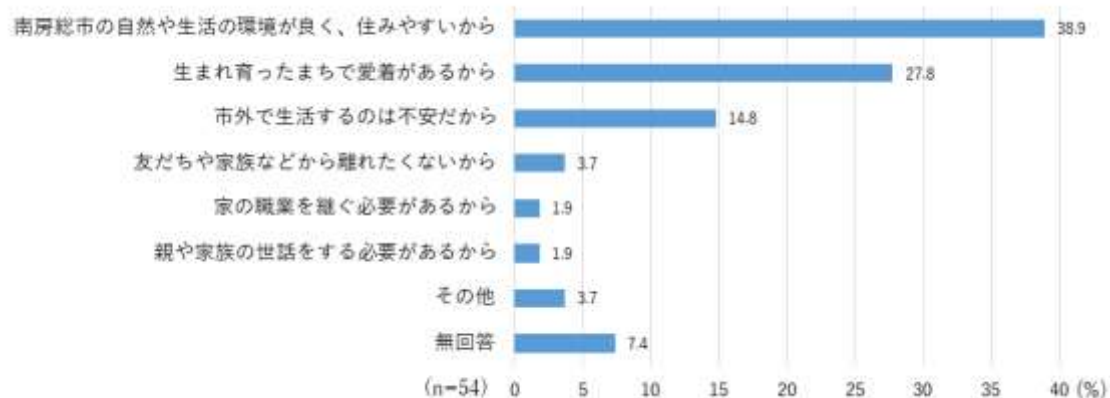
### (3) 住み続けたい理由

市民アンケートでは、「家族が住んでいるから」が57.5%と最も多く、次いで「生まれ育った場所だから」の順となっています。中学生アンケートでは、「南房総市の自然や生活の環境が良く、住みやすいから」が38.9%と最も多く、次いで「生まれ育ったまちで愛着があるから」「市外で生活するのは不安だから」の順となっています。

市民アンケート



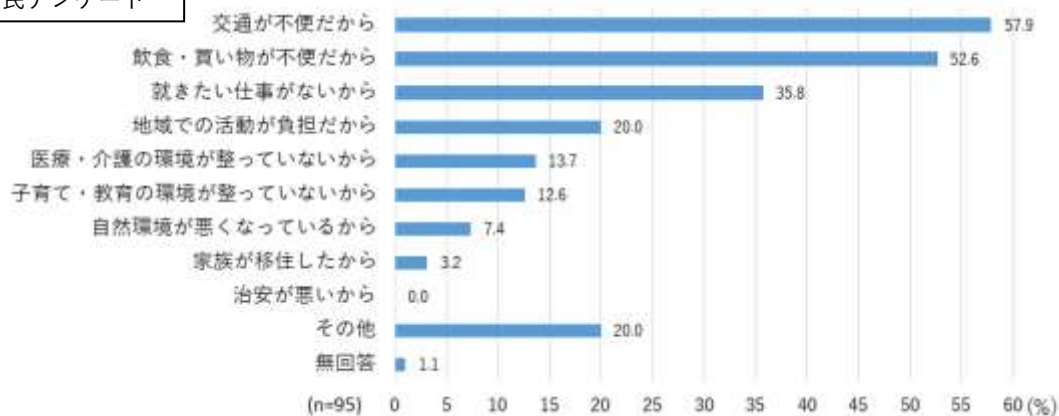
中学生アンケート



#### (4) 転居したい理由

市民アンケートでは、「交通が不便だから」が57.9%と最も多く、次いで「飲食・買い物が不便だから」の順となっています。中学生アンケートでは、「南房総市では、いろいろな職業の中から自分の道を選べる可能性が少ないから」が36.9%と最も多く、次いで「南房総市では、交通や買い物など、不便なことが多いから」となっています。

市民アンケート



中学生アンケート



## 第5章 前期基本計画の総括と市の現状からみた主な課題

本市の人口減少は加速化しています。2020（令和2）年の総人口は35,831人ですが、国（社人研）によれば、2045（令和27）年には約2万人まで減少するものと推計されています。

前期基本計画の重点プロジェクトでは、喫緊の課題である人口減少対策を主眼に据え、20～39歳人口を4,800人に維持することを目指しました。しかしながら、2020（令和2）年の20～39歳人口は3,813人にとどまり、目標を大きく下回りました。

以上のことから、本計画においては、引き続き人口減少抑制をまちづくりの最も基本的な課題とします。そのうえで、人口減少抑制に向けた4つの課題を、まちづくりの重点課題として設定します。

### （1）妊娠・出産から就学・進学まで、切れ目のない子育て支援の展開と教育環境の更なる充実

本市における2020（令和2）年の合計特殊出生率は1.04、出生者数は108人となっています。子どもを持ちたいと望む市民や、現在子育て中の市民に対し、妊娠・出産期から就学期まで切れ目のない子育て支援を展開し、安心して子どもを産み・育てられる環境づくりをさらに進めていく必要があります。本市においては男女とも有配偶率が県より低い水準となっており、結婚を促す環境づくりも大切です。

また、児童・生徒数の減少に伴う学校の統合などが進む中、児童・生徒の学習環境のさらなる充実を図り、子どもがのびのびと育ち学ぶ環境づくりを、家庭・地域・行政の連携のもとで進めていく必要があります。

### （2）産業の振興と南房総市らしい働き方の実現

本市の産業は、農業・漁業などの第1次産業を基幹としており、これに、豊かな地域資源を活かした観光業などを加えて成り立っています。しかしながら、市民等意識調査結果では転居したい理由として「就きたい仕事がないから」が約3割、中学生アンケートでは「南房総市では、いろいろな職業の中から自分の道を選べる可能性が少ないから」が約4割を占めており、本市ならではの多様な働き方の実現が求められています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業立地の自由度と、個人の居住地選択の自由度が高まりました。本市のように、豊かな自然と多様な地域資源に恵まれた地域への関心も高まり、健康・観光・環境など、さまざまなビジネスチャンスが生まれるものと思われます。



このような背景のもと、今後は『稼げる産業』の育成とともに、南房総市らしいライフスタイルと働き方を実現する仕事の育成とマッチングが必要と考えられます。

企業のみならず起業家などの人財の誘引に努めつつ、本市の強みを活かした産業育成と仕事づくり、人と仕事とのマッチングに努めていく必要があります。

### **（３）移住・定住の促進**

温暖で緑と海の恵み豊かな本市は、子育ての場として適しているだけでなく、子どもから大人まで、誰もが心豊かに、その人らしい暮らしを営む場としての魅力に溢れています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大などを契機として、都市部を離れ、地方への移住を志す人も増えていますが、他方で、住まいや仕事の確保などに不安を感じる人も少なくないようです。

本市では、2022（令和4）年3月、市民とのワークショップから生まれた『七色の自然に暮らす』というメッセージのもと、移住・定住プロモーションサイトを立ち上げました。今後も、シティプロモーションの積極的な展開などを通じ、都市部などからの移住促進に引き続き努めるとともに、住まいや仕事などのコーディネートを視野に入れた総合的な支援の展開が必要です。

他方、「第4章 市民の意向」に示した通り、若者世代が将来に対する希望を十分に持つことができず、これが人口流出につながっている現状があります。「ずっと住み続けたい」「いずれは戻ってきたい」という若者の気持ちに答え、定住を促す環境整備に努めていく必要があります。

### **（４）コミュニティ活動の維持・活性化**

市内各地区の地域コミュニティは、子どもや高齢者などの見守り、農繁期の助け合い、犯罪の防止や災害発生時の共助など、長年にわたり、多様な機能を発揮してきました。しかしながら、人口減少が進む中、また近年では新型コロナウイルス感染症の影響により対面型のコミュニケーションが難しくなる中、地域コミュニティの希薄化と、活動の困難さが顕著になっています。

地域コミュニティは、市民の日常生活の基盤であるとともに、市民と市民、市民と行政との協働の基盤ともなります。今後も、地域コミュニティの活力維持に努めるとともに、市民・事業者・団体などによる地域課題の解決に向けた自主的活動などの活性化を図っていく必要があります。

また、子育て支援、環境美化、産業振興、移住・定住促進といった課題に取り組む団体など、市内ではさまざまなテーマ型コミュニティが活動しています。これらのテーマ型コミュニティは、地域コミュニティとともに、まちづくりの大切な主体です。

このため、今後も団体などの自主的な取組を支援しつつ、その活動の活性化を図っていく必要があります。

施策の体系（施策名変更案）

| 第1章 優しく安心して暮らせる南房総（保健・医療・福祉） |                                                                                                                               |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1-1                          | 保健・医療体制の充実                                                                                                                    |
| 1-2                          | 高齢者福祉の充実                                                                                                                      |
| 1-3                          | 障害者福祉の充実                                                                                                                      |
| 1-4                          | 地域福祉の充実                                                                                                                       |
| 第2章 活力ある地域産業の南房総（産業・雇用）      |                                                                                                                               |
| 2-1                          | 農林業の振興                                                                                                                        |
| 2-2                          | 水産業の振興                                                                                                                        |
| 2-3                          | 観光の振興                                                                                                                         |
| 2-4                          | 商工業の振興                                                                                                                        |
| 2-5                          | 新たな産業の振興                                                                                                                      |
| 第3章 豊かな学びと文化の南房総（教育・文化・スポーツ） |                                                                                                                               |
| 3-1                          | 教育内容の充実                                                                                                                       |
| 3-2                          | 子育て支援の充実                                                                                                                      |
| 3-3                          | 学校教育施設の整備充実                                                                                                                   |
| 3-4                          | 生涯学習の推進                                                                                                                       |
| 3-5                          | 文化振興と地域文化の継承                                                                                                                  |
| 3-6                          | スポーツ・レクリエーション活動の推進                                                                                                            |
| 第4章 安全で快適な南房総（生活・自然）         |                                                                                                                               |
| 4-1                          | 交通安全・防犯対策の推進                                                                                                                  |
| 4-2                          | 防災・消防・救急対策の充実                                                                                                                 |
| 4-3                          | 自然環境の保全と共生  ゼロカーボンシティに向けた取組の充実             |
| 4-4                          | 土地利用・景観整備                                                                                                                     |
| 4-5                          | 住環境の整備                                                                                                                        |
| 4-6                          | 上水道の整備                                                                                                                        |
| 4-7                          | 廃棄物対策の推進                                                                                                                      |
| 第5章 地域がつながる便利な南房総（道路・交通）     |                                                                                                                               |
| 5-1                          | 道路の整備                                                                                                                         |
| 5-2                          | 公共交通の機能強化                                                                                                                     |
| 第6章 市民が創る南房総（移住促進・市民参加・行財政）  |                                                                                                                               |
| 6-1                          | 協働のまちづくりの推進                                                                                                                   |
| 6-2                          | 移住・交流の促進                                                                                                                      |
| 6-3                          | 開かれた行政の推進                                                                                                                     |
| 6-4                          | 男女共同参画社会の形成                                                                                                                   |
| 6-5                          | 効率的・効果的な行財政運営の推進  DXなどを通じた効率的・効果的な行財政運営の推進 |